

# 渡良瀬遊水地のヨシ焼きと自然環境

白井勝二

## 1. 渡良瀬遊水地と自然環境

渡良瀬遊水地は、東京から 60 km に位置し、群馬、栃木、茨城、埼玉の 4 県にまたがり、その面積は 3,300ha（山手線の内側の約半分に相当）と広大で豊かな環境を有しています。

渡良瀬遊水地は、利根川、渡良瀬川などが大洪水の時に渡良瀬川、思川、巴波川の洪水を一時貯留し、利根川のピーク時に影響を与えない治水の役目と谷中湖に水を貯めておき利根川の水が少なくなったときに、補給する利水の役目をもった施設です。



図一 1 渡良瀬遊水地位置図

また、渡良瀬遊水地は、広大な空間を有しており散策、スポーツ、レクリエーションなど様々な利用がなされて年間 100 万人が利用しています。

渡良瀬遊水地は、河川法で開発行為が規制され、ヨシ焼きなどにより豊かな緑を有し、その面積は 1,500ha と本州最大のヨシ原で多くの動植物の生息空間となっており、2012 年 7 月にはラムサール条約湿地に登録されました。

ヨシ原を中心とする湿地帯には、約 1,000 種類の植物が生息しています。渡良瀬遊水地以外ではあまり見られないトネハナヤスリ、エキサイゼリ、タチスミレ、ハナムグラなど 60 種の国指定の絶滅危惧植物が群生しています。

鳥類は、国内で確認された野鳥の約半分 255 種が確認されています。特にチュウヒやサシバなどのワシ、タカ類が多く生態系の豊かさを物語っています。また、渡り鳥の中継地にもなっており、8 月～9 月には 10 万羽のツバメのヨシ原へのねぐら入りが見られます。

昆虫は、1,700 種でワタラセの名が着いた昆虫もいますが国指定の絶滅危惧種は 62 種です。これほど多くの貴重な動植物が一箇所で見られるところは他にありません。

このような自然豊かな環境が関東平野の中央に位置し、多くの動植物の生息の場であるとともに、その環境生かし多くの人々が利用していることは貴重であり将来まで保全、再生していくことが望まれています。

## 2. 渡良瀬遊水地の地域一体となったヨシ焼き

渡良瀬遊水地は、明治 40 年まで谷中村があり約 380 戸 2,500 人の人々が生活していました。人々は農業の他、多くの池沼や水路で、漁業を始め植物のヨシを利用したヨシズ作りや、スゲを利用した菅笠作りなどが行なわれていて、周辺地域の伝統的な産業となっていました。その内でもヨシズ作りには良質なヨシが必要であり、この広大なヨシ原を 3 月中旬～下旬に焼く、



写一 1 ヨシ焼き

ヨシ焼きが行われています。これは、ヨシの病害虫を防ぎ、地表まで日光を当てヨシの成長を促し、太くて背の高いヨシを育成するものです。これに伴い、ヨシ以外の多くの植物も種からの発芽や根などから芽吹くことができ、多様な環境を創出しています。ヨシズ生産も昭和40年代から外国産の輸入が始まると国内産の生産は減少していて、現在は、ヨシ等の産業に従事している人は著しく減少しているがヨシ焼きは継続しています。

このような歴史的経過を踏まえてヨシ焼きは、毎年地元の人1000人程度により実施されてきた地域の風物詩であり、人々により維持管理されてきた環境であり、地域文化ともいえます。

### 3. ヨシ焼きによるヨシ原の維持・環境の保全

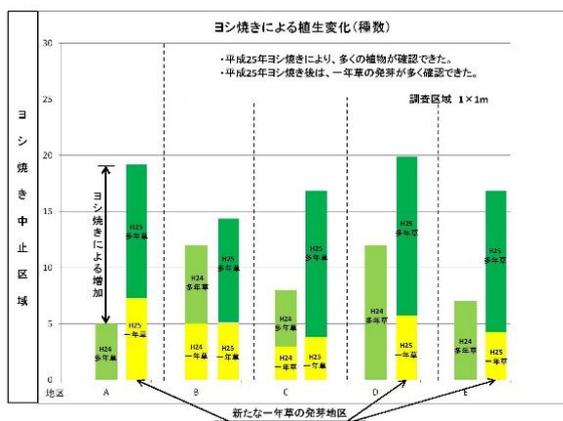
渡良瀬遊水地では毎年ヨシ焼きを実施していたが、平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震(MW9.0)が発生し、大きな被害が生じたことや地震にともなう福島第一原子力発電所事故による放射能の問題が注目され、ヨシ焼きを中止になりました。ヨシ焼き中止により枯葉、ヨシの堆積で多くの植物の生育が困難となるなど動植物の生育にも影響が発生してきました。

そんな中、平成24年7月には渡良瀬遊水地もラムサール条約に登録されるなど、ヨシ焼き再開の検討がなされ、防火帯の設定や、実施内容を始め立入禁止など事前に周辺地域に周知し、2年ぶり地域の協力を頂き平成25年3月17日に実施しました。

ヨシ焼き中、ヨシ焼き後の空間線量もヨシ焼き前とその値の差は見られませんでした。

ヨシ焼き後は、ヨシをはじめ絶滅危惧種のノウルシ、トネハナヤスリ、タチスミレなど多くの植物が芽吹き一面青々とした景観となり、多くの動植物の生息の場に戻りました。

ヨシ焼きを実施しない平成24年と同じ場所でヨシ焼き実施した平成25年の植生の変化を調査した結果、A地区では、平成24年5種の植物が、ヨシ焼き後平成25年は19種になるとともに種より発芽する一年草が7種も確認された、これはヨシ焼きによる枯れ葉など焼却され日光が地表に届き、植物の発芽を促したものと思われます。このようにヨシ焼きの効果は大きく、良質なヨシの生育を始め多様な環境を維持し良好な景観、ラムサール条約登録の貴重な湿地条件の保全のためにも必要であることが確認されました。今後も地域の人々の協力のもと地域の伝統や文化として、確固として存続していくことが必要と思われます。



図一 2 ヨシ焼きによる植生変化

ヨシ焼き無し



ヨシ焼き実施



写一 2 トネハナヤスリの生育比較